石川県立金沢錦丘高等学校
第五十五回　卒業証書授与式
式　　辞

　校舎正面の紅白のしだれ梅が花を咲かせ、伏見の川辺にも春の気配が感じられる今日のよき日、同窓会長　宮川外志様、本校ＰＴＡ会長　槻雄一郎様、金沢錦丘中学校ＰＴＡ会長　辻井大之様をはじめ、多くのご来賓の皆様には、公私ご多忙の中、お祝いに駆けつけていただき、誠にありがとうございます。皆様のご臨席のもと、石川県立金沢錦丘高等学校　第五十五回卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより、教職員、在校生一同にとりましても大きな喜びとするところであります。この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

　ご列席の保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。高校に入学したての十五の春から、今日この日の十八の春まで、すべてが順調に来ましたでしょうか。そういうご家庭もおありでしょうが、多くのご家庭においては、もがき苦しむような事もあったのではないかと推察いたします。あたかも、頭の上を嵐が過ぎ去るのをただひたすら待つだけというようなご経験も、人知れずあったのではないでしょうか。いずれにせよ、この三年間、いや、十八年間の子育て、本当にご苦労様でした。今日くらいは、自分自身を褒めてあげて下さい。本当にお疲れさまでした。

　卒業生の諸君、卒業おめでとう。錦丘での三年間はいかがでしたか。楽しいこともあったでしょう。期待通りに進まず、つらい思いをしたこともあったでしょう。それでも、錦丘に入学以来、勉学はもとより、部活動や生徒会活動などに、自分なりに懸命に取り組んできたと言える日々だったのではないでしょうか。特に今年度は、最上級生として部活動をリードし、初めて一般開放に踏みきった紫錦祭でも自らのわがままを抑えつつ、おもてなしの精神で成功に導いてくれました。心より感謝しています。私は昨年四月、十二年ぶりに錦丘に戻ってきました。当時と比べても、変わらないなあと感じていることがあります。それは、諸君の素直さと純朴さです。本当に心優しい生徒ばかりです。教員との間に暖かい信頼関係が築かれている場面も、この一年、数多く目にしてきました。放課後のグラウンドや体育館、あるいは校舎のあちらこちらで懸命に指導する教員と真摯に向き合う諸君の姿、進路指導室に質問にきた諸君に真剣に対応する教員とうなずく諸君の姿などは、見ていて微笑ましく爽やかな気持ちにさせてくれました。私自身、四月早々、昼食時に英語の補習を四日連続で実施した際も、毎回百人以上が受講する盛況ぶりでした。また、朝の挨拶に立っていた際、「寒くありませんか。カイロ使いませんか。」と自分の使っていたカイロを差し出す生徒もいました。**人への優しい気持ちを、素直に行動に移す**ことができる純朴さは諸君の強みです。武器であり、宝物です。どうか生涯にわたり、持ち続けてくだ

さい。

さて、話題を変えたいと思います。今年度最も記憶に残る出来事の１つとして、自国開催のラグビーワールドカップにおける日本代表の活躍をあげねばなりません。「ワンチーム」という流行語まで生まれました。史上初のベスト８に進出した日本代表チームのキャプテン、リーチ・マイケル選手は、ニュージーランドで生まれました。現地の中学校を卒業後に来日し、縁あって、札幌山の手高校という学校に進学します。生活環境が全く異なり、言葉も上手く伝わらない状況でのスタートでした。

今は、日本人女性と結婚し、娘さんもおられ、日本国籍を得て、非常に印象的な日本語を紡いでおられます。彼の頭の中には、勝利とは別に、伝えたい思いがあります。それは、ラグビー日本代表を語る上で、常につきまとう「外国人ばかり」という声に対する、彼なりの答えでもあります。今から、ワールドカップ開幕前日のインタビューから抜粋した彼の言葉を紹介します。「代表にはこれからも外国人選手はいる。外国人が入ることでチームが強くなる部分もあるし、人種関係なく同じ目標に向かって一生懸命にやっているところを見せたい。**世界のグローバル化に、日本は少し遅れている。**今後、日本も外国人と一緒に仕事をしないといけない時代が来る。僕が日本に来たとき、外国人なんて見なかった。でも、今は電車に乗れば車両に１人はいる。そういう時代。日本人だけじゃなくて、今日本に住んでいる外国人にも、今のグローバルな日本代表の姿を見せたい。自分の国のスタイルだけで日本にいると、うまくいかない。**このチームには、ダイバーシティ（多様性）がある。いろんな背景を持った選手が、お互いに学べる。大切なのはお互いの文化を理解し、リスペクト（尊重）すること。このチームは日本の未来を先取りしている。スポーツでそれができていることを証明したい。**」こんな風に述べていました。ダイバーシティ（多様性）、この言葉こそが、これから８０年生き抜かねばならない諸君にとって、キーワードとなります。***人口が縮小し、資源が乏しいこの国には、ダイバーシティ（多様性）を認め、お互いをリスペクト（尊重）し、世界と協調して歩んでいくほか、生き延びる術はないのです。諸君の強みである、人への優しさを行動に移す純朴さを武器に、世界へ羽ばたいてください。そして、いつの日か、ここ金沢に、石川に戻ってきてください。何もかも、なつかしい、そう思える日が必ず来ます。それは、ここが、諸君のふるさとですから。錦丘は諸君の母校ですから。***

最後に、諸君の無事と健康と、そして、いいことがたくさん起こることを、心より祈念し、私の式辞といたします。

令和二年三月三日

石川県立金沢錦丘高等学校　校長　堀　義明